

項目	書名 新編 新しい書写 2 東 書	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○楷書や行書などの文字を整えて書くためのポイントが、視覚的に示してある。 ○書写の学習を生活に関連付け、目的や必要に応じて楷書や行書を選択させるための話し合い活動を取り入れている。 ○学校生活等に実際に生かせる手書きのよさが、さまざまな資料を掲載することで伝わる。 	
特色	<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「学習の目標」が示されて、「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「書くときのポイント」「学習のポイント」が設けられ、確認しながら学習が展開できるようになっている。 ○毛筆では、穂先の動きが濃淡のある朱墨で示してある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の取組において、「目標と課題の確認」「課題解決のための練習」の過程に重点がおかれ、「しょしゃのつぼ」やスー・トン・ピタというキャラクターにより解説がなされて、課題を意識しながら学習できるようになっている。 ○毛筆の学習後に、関連した硬筆教材を配置し、関連させながら学習に取り組みせるように構成してある。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の進め方」では、学習の目標と自分の課題を確認する。→課題を解決するために練習する→振り返る→活用する・発展 という流れが示されている。 ○「振り返る」の部分では、自己評価したり、生徒同士で評価し合ったりできるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に「生活を豊かにする文字」という単元を設け、手紙や掲示物、職場訪問、防災訓練などの取組を題材に、学校生活等と書写の関連を図っている。 ○毛筆の学習を通して、トメ・ハネ・ハライなどの書き方を身に付けて、その後「広げよう」という教材で硬筆との関連を図っている。
	<p style="text-align: center;">資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や原寸大のイラスト等を使って「姿勢・筆記具の持ち方」を解説している。 ○巻末の「資料」に「いろいろな書式」「漢字の成り立ち」「古典作品」「書き初め」「季節の言葉」を写真や解説を交えて掲載している。 ○「常用漢字表」「人名用漢字表」は、楷書と行書を併記している。
	<p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。筆使いのポイントをトン（始筆）・スー（送筆）・ピタ（終筆）と表記して、リズムの感覚でとらえるようになっている。また、かなの筆順も示している。 ○ガイド役のキャラクターが、目標や進め方、振り返りを案内している。
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○A Bの判型である。 ○巻頭の「学習のはじめに」で、「これから学ぶこと」を示し、「姿勢・筆記具の持ち方」が大きな写真イラストで示されている。 ○毛筆で学んだことを硬筆で確認・発展させるような構成になっている。また、「書くときのポイント」を参考に書くようになっている。 ○書写を日常の生活に生かすように「しょしゃのつぼ」「しょしゃのたね」で関連する内容を紹介している。 	

書名		中学校 書写	11 学 図
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○始筆・終筆・筆脈を点線や矢印で示して、楷書や行書の違いやかなの書き方を言葉によって解説をしている。</p> <p>○楷書と行書を使い分けができるように、それぞれを書く場面を設定し、写真による資料を掲載している。</p> <p>○「書写の窓」では、文字の歴史に触れ、「なぜ毛筆を学ぶのかなど」現代の私たちの使っている文字につながっていることを示している。</p>		
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○教材ごとに「目標」がタイトルとして示されている。手本の多くには、中心線などが引かれ、文字のバランスを身に付けさせるようになっている。</p> <p>○毛筆では、穂先の動きが濃淡の朱墨により示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各学年の取組が段階を追うように単元立てていて、ねらいを意識させながら取り組むように構成されている。また、文字の字形を整えて書くことを重視している。</p> <p>○写真や図による手本を提示し、自分の文字と比べながら取り組ませるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○巻頭の「学習の進め方」には、試し書き→練習→まとめ書き→硬筆で書く という流れが示されている。</p> <p>○練習の後には「振り返って…」が示され、学習の目標に対して自己評価できるようになっている。</p> <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <p>○毛筆の学習の後に、「硬筆で書いてみよう」と両者の関連が意識されるようになっている。「ここに気をつけよう」では、文字を書く際のポイントが示され、練習するようになっている。</p> <p>○3学年の最後には「書写をいかそう」という単元を設け、手紙・教科の新聞・寄せ書き・ポスターなど学校生活等との関連を示している。</p>	
	資 料	<p>○巻頭に「書くときの姿勢」「腕の構え方・筆の持ち方」「筆の各部の名称・働 き」を写真イラストで解説している。</p> <p>○各学年の最後には「書き初め」を示し、巻末の「資料編」には、「楷書のいろいろな書き方」を示している。</p> <p>○「漢字一覧表」には、常用漢字を行書体で掲載している。</p>	
	表記・表現	<p>○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。手本と別に中心線や筆使いのポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示している。</p> <p>○毛筆の手本は半紙の原寸大で掲載している。</p> <p>○ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを示している。</p>	
総 括	<p>○B5変型の判型である。</p> <p>○毛筆の主な手本を見開き2ページで示している。学習の目標や振り返りのポイントを簡潔に示し、毛筆で学んだことを硬筆でも生かすように構成されている。</p> <p>○書写の学習を生活に生かすための学習は3学年でまとめて取り組ませるようになっている。</p> <p>○「書写の窓」では、鑑賞すべき作品や発展的な学習内容を紹介している。</p>		

書名		現代の書写	15
項目			三省堂
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○筆使いを朱墨と薄墨で示している。筆の穂先・軸・筆圧についてもポイントを写真や図により解説している。 ○楷書と行書の違いやどのように使い分けるかなど、話し合わせて効果的な使い方を意識させるような言語活動例を示している。 ○現代の生活の中に存在する「書くこと」の文化が紹介され、手書き文字のよさが伝わる資料が掲載されている。 	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」が示されている。「考えよう・話し合おう」を設けている。 ○毛筆の筆使いでは、筆圧や穂先の動きを濃淡のある朱墨等で示している。 ○毛筆の学習に際し、硬筆で文字の間隔やバランスを確認するようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元とも「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」という流れで構成している。 ○キャラクターが、書く際のポイントを解説している。 ○1・2学年は2回、3学年は1回の「生活に生かそう」という単元を設定し、場面や目的に応じた書体・筆記具等を選んで書く力を育成するようになっている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の流れ」には、学習の見通しをもつ→学習する→復習→学習を生かして主体的に書く という学習の流れを示している。 ○「振り返ろう」では、学習の目標にあわせて、自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活に生かそう」「効果的に書こう」の単元を設け、行事への取組を通して書写と生活の関連を掲載している。 ○毛筆で学習した後に、「書いて確かめよう」として硬筆の教材を設定して、関連を図っている。 	
	資料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「望ましい姿勢と筆記具の持ち方」を写真やイラスト使って、望ましくない持ち方との比較をしながら示している。 ○巻末の「資料編」には、「日常の書式」「文字の変遷・文房四宝」「書き初め」「自分の文字」を掲載している。また文字や書に関する資料が写真や図とともに解説を伴って掲載されている。 ○「楷書・行書一覧表」は、常用漢字を小・中学校別に示している。 	
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆手本の中心を▼▲記号で示している。筆使いのポイントを記号・点線・濃淡・穂先の図で示している。かなの筆順も示している。 ○文字の整え方について例を示しながら、話し合う場を設けている。 ○ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを示している。 	
総括		<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○各単元の学習の初めに「考えよう・話し合おう」という活動を設定している。また、毛筆で学んだことを硬筆で復習し、生活に生かすように構成されている。 ○見開き2ページの右に指導事項、左に手本という構成になっている。 ○3学年では、「三年間で学んだ書写技能」が掲載され、中学校のまとめができるようになっている。資料にもさまざまな「日常の書式」を紹介している。 	

書名		17 教 出
項目	中学書写	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○穂先の写真や点線、筆順を示す数字により、始筆・送筆・終筆の仕方がわかるようになっている。 ○楷書と行書の使い分け、用具・形式・書き表し方を目的や内容に応じて工夫するように話し合う活動例が示されている。 ○写真や図、作品例により、取組等の解説をしている。学習したことを日常生活に生かすための資料が紹介されている。
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。また、「なぞり書き」を設けて、文字のバランスを身に付けるようになっている。 ○毛筆では、基本的な点画や題字ごとの筆順、穂先の動きを濃淡のある朱墨で示している。硬筆で試し書きをした後に、毛筆での書き方を学習するようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年とも段階を経ての単元構成になっている。各資料には解説を加え、課題意識をもって取り組ませようとしている。 ○授業や社会生活に関連した写真や資料などを解説とともに掲載し、参考例と比べながら習得した技能等を活用させる機会を設定している。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の進め方」では、目標を確かめよう→試し書きをしよう→考えよう→生かそう→振り返ろう→学習や日常生活に生かそう と示されている。 ○「振り返ろう」では、目標に即して自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習を生かして書く」の単元を設け、原稿用紙やレポート形式、手紙、ポスター、案内状など、生活と書写との関連を図っている。 ○毛筆で学んだことを他の文字に生かして書くことを意識させる「生かそう」の段階を設け、毛筆と硬筆の関連を図っている。
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「姿勢と用具の使い方」「用具の置き方」では、後片付けまで写真を使って説明している。 ○各学年の最後に「書き初め」を、巻末に「資料」配置している。資料では、「書式の教室」「補充教材集」を掲載している。 ○「漢字一覧表」は、常用漢字を小・中学校別、部首別に行書体で掲載している。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆手本の中心を点線や記号で示している。筆使いのポイントが記号・点線・濃淡・穂先の図で示してある。かなの筆順を示している。 ○振り返りでは、評価のポイントを示してある。ガイド役のキャラクターが、学習のポイントを紹介している。
総 括		<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○巻頭の「目的に合わせて書こう」で「書く目的」ごとに「どのような力を身につけるか」を示している。各学年の初めに改めて目次を掲載している。 ○見開き2ページの右に毛筆手本、左に「目標」「考えよう」等の学習項目を示している。書写で学習したことを生活に生かす学習は、2学年の単元としている。発展的な内容や資料も教材と教材の間に配置し、著名な人物の肉筆も紹介している。

書名		38 光村
項目	中学書写	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり		<ul style="list-style-type: none"> ○穴埋め形式により、文字を書く上でのポイントを理解させるようになっている。 ○楷書と行書の使い分けが適切にできるように、写真や絵を用いて、理解が深まるようにしている。 ○文字文化への理解を深めるためのコラムが掲載され、手書き文字のよさを伝えるための学習や生活に役立つ資料を写真や図によって示している。
特色	特 内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに「目標」を示している。「なぞり書き」や書き込み式で確認しながら、文字のバランスを身につけさせるようになっている。 ○毛筆では、点画の種類と筆使いについて数字を用いて筆圧を示し、濃淡の朱墨で穂先を示している。毛筆を学習した後、硬筆を練習させるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書に文字を書く上でのポイントを記入させたり、手本を見ながら練習する欄を設けたりすることで、考えながら習得させるようになっている。 ○「資料」編では、他の授業でも活用できるものや生活に関連したものを写真や図で掲載し、学んだことを生かせるようにしている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「学習の流れ」では、学習の見通しをもつ→学習・活動に取り組む→学習を振り返る と示している。 ○「学習を振り返る」では、目標と照らし合わせて自己評価できるようになっている。 <p><国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「日常の書式」では、手紙や入学願書など具体的な題材を取り上げ、「活用のヒント」では、マッピングやレポート、体育祭の応援旗、新聞の書き方など、生活と書写の関連を図っている。 ○毛筆の学習後に、硬筆教材を配置し、関連を図っている。
	資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「書くときの姿勢」「筆記具の持ち方」「片付け」など写真を使って解説をしている。 ○巻末の「資料編」には生活と書写を関連づけた資料が多く掲載され、各学年の単元末には、コラム欄があり、写真や図により文字への興味関心を高めている。 ○「常用漢字一覧表」と「部首別行書一覧」は、楷書と行書を併記している。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の手本の中心を記号で示している。筆圧を数字で、筆使いをトン（始筆）スー（送筆）トン（終筆）と表記している。また、点線・濃淡・穂先を図で示している。 ○学習目標と振り返りを別の枠で示して、○△で自己評価させている。
総 括		<ul style="list-style-type: none"> ○B5の判型である。 ○見開き2頁に教材がまとめられている。毛筆で学習したことを硬筆で生かせるような構成になっている。「学習の窓」で基礎基本を身につけるヒントが掲載されている。「コラム」欄では、書写に関する知識や硬筆による楷書・行書を書かせるようになっている。「資料編」では、「日常の書式」など、書写で学んだことを生活に生かすヒントをまとめている。